

教科	・児童の課題○重点目標	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を読むことに対して抵抗のある児童がいる。 ・言葉を読んでも、その意味を理解する事が難しいことがある。 ・文章を書くことに対して抵抗のある児童がいる。 ○文章を読み、その意味を理解し、自分の考えを書くことを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの活動や普段の会話の中から、語彙を増やす。 ・音読の活動を意図的に設定し、声に出す事で文を正しく読む機会を増やす。 ・手掛かりになる言葉や文に着目させ、意味への理解が深まるようにする。 ・日常的に出来事、気持ちなどを書く場面を作り、書くことに慣れるように計画する。 ・指導→観察→授業改善のサイクルで日々の指導の工夫を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の内容の捉え方がまだ十分でないことから正しく回答できない児童がいる。 ・数の概念とその表し方や意味を理解することが難しいことがある。 ○数量や図形についての感覚を豊かにし、算数の楽しさを実感することを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発問で「分かっていること」を青、「問われていること」を赤で線を引き、正しく捉えられるようにする。 ・ブロックの操作や折り紙など具体物で表す活動を通して、正しく理解できるようにする。 ・ロイロノートなどで自分や友達の考えを交流することで成長や課題を実感できるようにする。 ・クロームブックのドリル学習機能などを活用して、個別的課題を反復的に学習できるようにする。 ・指導→観察→授業改善のサイクルで日々の指導の工夫を図る。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人や社会、自然との関わりをもっても、身近な生活に関わる見方・考え方に生かし、生活を豊かにしようとする態度までつながっていない児童がいる。 ○自分と周囲との関わりに気付き、気付いたことを様々な方法で表現する力を身に付けることを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や動物との触れ合いや遊びなど、体験的な活動を多く取り入れながら、活動の意味を意識付けさせられるよう、導入発問や振り返りを大切にす。 ・八丈町三根地域の人や保護者との活動を計画し、様々な立場の人と関わる中で、自分自身の生活に目をむけ、これからの生活を豊かにしようとする意識付けを意図的に行う。 ・絵や言葉、クロームブックなど、いろいろな表し方を提示し、自分で選べるように活動を工夫する。 ・指導→観察→授業改善のサイクルで日々の指導の工夫を図る。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって体を動かすことができない児童がいる。 ・伴奏に合わせて歌ったり演奏したりすることが苦手な児童がいる。 ○音楽を聴いて、拍を感じ取れるようにすることを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動の一環として、曲に合わせて楽しく手拍子を打ったり足踏みをしたり体操したりする活動を取り入れる。 ・音楽をよく聴くことや速度に注目するように繰り返し言葉掛けをする。 ・メトロノームやリズムボックスを活用する。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に教材に関わり、楽しんで活動に取り組んでいる。一方で、苦手意識や不安があり、手が動かない児童がいる。 <p>○造形遊びを通して、自らの感覚を働かせて表し方を工夫したり、見方を広げたりすることを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に映像資料を取り入れて、活動の見通しを立てたり、意欲を高めたりしやすくする。 ICTを活用して、必要な資料や、友達の作品などをいつでも見られる環境にして、安心して活動に参加できるようにする。 表現を試行錯誤する時間を設定し、苦手意識や不安を解消することで積極的に活動に取り組めるようにする。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもって運動することが難しい児童がいる。 安全に、ルールを守って友達と楽しく運動することが苦手な児童がいる。 <p>○運動の楽しさを味わい、主体的に学習しようとする意欲をもたせることを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題を提示したり、言葉掛けをしたり振り返りをしたりすることで、児童が自分の思いだけで運動するのではなく目的意識をもって取り組めるようにする。 安全な道具を使い、楽しく取り組めるやり方やルールを話し合っ、全員で作り上げる活動を行う。また、活動の合間に水分補給や休憩時間を取り、熱中症対策に努める。 クロームブックのカメラ機能を活用し、自分や友達の動きを記録して、「やってみたい」と思わせる活動をすることによって、成長や課題を実感できるようにする。 指導→観察→授業改善のサイクルで日々の指導の工夫を図る。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。